

2018年2月20日

立教大学国際学術研究交流制度
2017年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	経営学部・教授
	氏名	並木 伸晃
受入学部・研究科・研究所		経営学部
招へい 研究員	所属・職	Associate Professor, Business School, Queensland University of Technology 協定の有無：学部 所在国：オーストラリア
	氏名	Rumintha Wickramasekera
招へい期間		2018年1月9日～2018年1月19日（11日間）
研究経費		306,880円

2. 滞在中の活動

来日および離日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

年月日	活動内容
2018年1月9日(火)	招へい期間開始。リサーチセンター訪問。証明書、書類等を受け取った。 共同研究打ち合わせ。M704。12:00~14:00。
2018年1月15日(月)	日本企業の国際化に関する共同研究打ち合わせ。M704。15:00~16:30。 ゼミナール。X202教室。18:00~21:30。受入教員の授業「Global Management」 で、Global Strategy Culture について講義。
2018年1月16日(火)	発表会。マキムホール10階会議室。12:00~13:30。 Internationalisation of SMEs (Small to Medium Sized Enterprises) を発表。 経営学部でこの発表会を開催。経営学研究科学生達に連絡した。教員、大学院生、 約8-9人が参加した。約40分間の発表後、質疑応答を行った。 日本企業の国際化に関する共同研究打ち合わせ。M704。16:00~18:00。
2018年1月16日(火)	ゼミナール。X202教室。18:30~21:30。受入教員の授業「Strategic Management」 で、Global Strategy について講義。

2018年1月19日(金)	日本企業の国際化に関する共同研究打ち合わせ。M704。13:00~15:00。 招へい期間終了。(私費にて滞在を延長し、2017年12月10日来日。2018年1月20日(土)日本滞在。)
---------------	--

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

Dr. Rumintha を 2017 年春に招へい研究員として招待することを決めた時、彼が今まで出版した論文を送ってもらい、読んでみた。彼の主な研究は、中小企業の国際化戦略についての研究である。私が米国大学院で博士号（国際ビジネスと経営戦略論）を取得し、米国大学で教鞭を取っていた時、同じようなトピックを研究していた。私は米国の製造企業の輸出行動、彼はオーストラリアのワイン企業の輸出行動を研究していた。しかし、この国際化戦略は米国では非常にポピュラーな研究トピックで、過去 50 年間で数百の論文が発表されている。特に米国は自国市場が大きいので、米国企業は国際市場に余り興味を示さないからである。そのため、私はハッキリ言って、彼とこのトピックでの共同研究をすることは消極的だった。余りに多くの研究論文が存在するので、斬新な研究論文の作成は困難と考えていたからだ。しかし、彼の論文「(Wickramasekera R, Oczkowski E, [2004] Key Determinants of the Stage of Internationalisation of Australian Wineries, *Asia Pacific Journal of Management*, 21 (4), p425-444)」を読んで、今まで私が知っている国際化戦略の論文には無かったものを発見した。この論文では、ステージ・モデルを使って、より正確に将来輸出しそうな企業を発見する方法を使っている。過去の企業の「国際化戦略」研究では、企業は4つステージを踏んで国際化するとされている。国際化する前に海外市場の存在を知るのが第1ステージ。輸出への興味を持つのが第2ステージ。試験的に輸出をして、輸出し始めるのが第3と4のステージである。しかし、最近になって、これらのステージ・モデルでは、企業の急激な国際化、また、国際化し始めたのに、離脱する企業の行動を説明できないことが問題となっている。そのため、Dr. Rumintha の中心研究課題は、色々な国の企業の国際化プロセスを、先述のステージ・モデルがどの程度説明出来るか、出来ないかを検証することである。現在までに、チリ、ブラジル、台湾、インド、オーストラリア等の企業を調査している。主に、ワイン生産企業、食品・飲料業界、電機業界の国際化プロセスを研究している。この発見のおかげで、私は彼との共同研究を行うべきと考え、2017 年秋に科研費プロジェクト「日本酒造（ワイン、日本酒、焼酎）中小企業の輸出行動：ステージ・モデルの適用」を申請した。この招へい研究員プロジェクトが無かったら、たぶん、科研費には申請しなかったと考える。

今回の招へいでは、先の論文「Key Determinants of the Stage of Internationalisation of Australian Wineries, *Asia Pacific Journal of Management*, 21 (4), p425-444)」に関して、より深く理解するために集中的に討論を行った。さらに1月15日のゼミナールでは、この論文の中身を発表してもらった。特に使用した HLM (Hierarchical Linear Modeling) について詳しく解説してもらった。かなり精巧な研究方法を使用しているのが理解できた。これからの活動により、彼との共同研究により積極的になることができた。

また、1月15日と16日に Dr. Rumintha に私のクラスで講義を行ったが、彼がどのようにオーストラリアで授業しているのかが、私も学生も分かって良かった。彼は学生により深く授業資料を理解してもらうために、短いビデオを作成していた。また、色々なケーススタディを作っていた。彼のオーストラリアでの授業方針、態度等が分かって非常に参考になった。